



緑豊かな？ブドウ畑の景観

猛暑が続いたが、10月に入って山梨も秋の気配を濃くしつつある。先の日曜の10月の6日、子どものいなか体験教室で稲刈りを行ない、東京から20人ほどの親子が参加した。

せっかくだからというので特産のブドウを是非皆さんに食べてもらい、また持ち帰ってもらいたいということで、知り合いのぶどう農家をお願いしたところ、もう収穫は終わったというところで、別の農家から調達してもらった▼ブドウの巨峰の場合、暑さでなかなか黒くならず、糖度が乗らない、房の下ほうが枯れたようになる等の話も耳にはしたが、総じて例年並みの品質に仕上がった感じた。この数年、巨峰からシャインマスカットへのシフトが急であった。さわやかな味と、皮のまま食べられるという簡便さという消費嗜好の変化もあるが、病気にもけっこう強く、高齢化で手をあまりかけたくないという生産側の事情も加味してのシフトらしい▼今年はシャインマスカットの伸びも頭打ちかと思いきや、ブドウの多様化の進行が顕著だ。シャインマスカットは緑色をしているが、赤色のサンシャインレッドが登場。巨峰に加えてクインシーナ、ピオーネ、藤稔、甲斐路等々と、並んではいても、逐一表示を見ないと判別できない状況になりつつある▼このようにブドウ生産は維持されているが、最大の変化は畑の周辺の様子である。畑内の手入れはなされていているものの、畑の周りや道、傾斜に伸びた雑草はそのまま放置されているところも少なくない。高齢化と担い手不足から、何とか畑の管理は行って生産は維持されているが、周辺の管理は半ば放棄状態が散見する。遠くから見ると緑豊かに見えはするものの、草むらを通ったり、斜面を登ったりはとてもできない状況になりつつある。

(土着菌)